

トピック①

地域との「共創」で育む学びの拠点 向陽学府小中一体校、誕生



日本一 やさしさが 育つ学校



新時代の学びを象徴する学校として、本市2校目となる一体校「向陽学府小中一体校」が令和8年4月に開校します。「日本一やさしさが育つ学校」をコンセプトに、小中一貫教育のさらなる充実と、地域と共に育む教育を目指した新たな学びの拠点の誕生です。

新時代の学校づくり

市は、小中一貫教育、コミュニティ・スクールのさらなる推進、より良い教育環境の充実を図り、未来を拓く子どもを育むため、「磐田市新たな学校づくり研究会」を組織し、新時代の学校づくりに向けて研究を行ってきました。「新時代の新たな学校づくり」では戦後に定着した小学校6年・中学校3年の計9年間の義務教育（6・3制）を維持しつつ、新たな学年区分を導入し、小中一貫教育でたくましい人づくりを進めます。また、これまで学校が地域と築いてきた伝統と歴史を土台とし、22世紀を見据えた学校づくりを指します。

本校は、向陽中学校と新たに開校する向陽小学校の二つの学校が一体となってスタートします。これに伴い、大藤小学校、向笠小学校、岩田小学校は閉校となりますが、それぞれの学校が地域と共に歩んできた歴史や伝統、子どもたちへの思いは、新しい向陽小学校に引き継がれていきます。

新たな校章

向陽中学校の生徒の皆さんからデザインを募集し、向陽学府全ての子どもたちの意見をもとに、新しい校章が誕生しました。

中心には、向陽中学校のスクールカラーであるえんじ色を用いた「學」を配置しました。その周りを囲む花びらは、向陽学府のシンボルフラワーであるコスモスです。花びらは9枚で、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を表し、一人一人がつながっている様子を表現しています。

さらに、花びらを囲む金色の「向陽」の文字は、昭和23年の向陽中学校開校時に地域公募で選ばれ、長く親しまれてきた校章の一部です。小学校3校と中学校1校が歩んできた歴史を大切に、新しい学校として歩み始める願いが込められています。



▲向陽学府小中一体校の校章

向陽学府小中一体校の開校に寄せて



児童代表 岩田小学校
ほりうち みはる
堀内美遥さん

出合いが広がる学舎

これまで違う小学校で過ごしてきた人たちと出合い、仲間が増えていくことがとても楽しみです。また、小学生と中学生が同じ校舎で生活することで、学校、学年を超えた交流がこの新しい校舎の中で生まれ、たくさんのことを学ぶことができると思います。

学校生活や小中学校合同の行事を通して、今まで以上に一体感のある学校になるだろうと感じています。

この新しい向陽学府小中一体校で、たくさんの思い出を作りながら、私も少しずつ成長していきたいです。



生徒代表 向陽中学校
かたおか まるこ
片岡真琉子さん

新校舎とともに始まる新しい一歩

出来上がった新校舎を見て、ここで学習できるのだと思うと、わくわくする気持ちでいっぱいです。1階には広い図書館があり、とても開放感があります。トイレは丸みのあるすてきなデザインで、今までのものとは全く違います。一番上の階はとても見晴らしがよく、海が見えて感動しました。2、3階の教室の外にはベランダがあり、ここで友達と話してみたいと思いました。

いよいよ新しい生活がスタートします。私たちは上級生としての誇りをもって、これからも文武両道でがんばっていきます。



開校準備委員会 委員長
みうらやすお
三浦靖男さん

共に歩む、新たな歴史のはじまり

大藤、向笠、岩田の子どもたちが9年間の学びを共にする新たな歴史が始まります。

令和元年5月、大藤、向笠、岩田3地区の地域づくり協議会長が連名で市に要望書を提出し、開校へのプロジェクトが動き出しました。市当局および市議会、市民の皆さんのご理解とご支援に感謝申し上げます。

開校準備委員会では、学校完成までに決定しなければならない多くの課題などを協議してきました。校名・校章・校歌、登下校時の安全対策、スクールバス運行といった重要事項は、相当な時間をかけて委員からさまざまなご意見を頂きながら、慎重に審議してきました。

最新の教育環境の下で質の高い教育をしていただくことが期待の第一ですが、地域に開かれ、地域の自慢となって、向陽学府の魅力向上につながればと願っています。



所在地

〒438-0013

磐田市向笠竹之内 1162-2
(現向陽中学校敷地内)

感謝の会



向陽中学校の生徒の発案により、建設工事に携わった皆さんに感謝の意を表したいとの思いから、感謝の会が開かれました。全校生徒約240名の手紙を向陽中学校生徒会が手渡しました。

竣工式





向陽学府小中一体校 新校舎

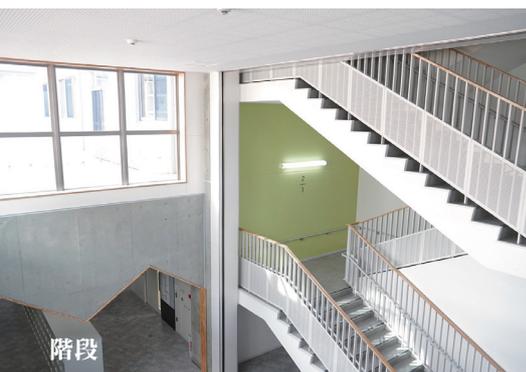
施設概要

- 構造：鉄筋コンクリート
- 階数：4階建て
- 延床面積：11,529㎡

向陽学府小中一体校は、子どもたちが日常的に利用する空間として、地域の「自然の豊かさ」を感じられる素材や色合いを用いることで、子どもたちが落ち着いた学校生活を過ごすことができるとともに、校舎という環境を通じて、自分たちの暮らす地域への愛着を育むことができる学校を目指しました。

小学校の思いを引き継ぐ アクセントカラー

子どもたちの日々の移動の中心となる階段は、窓から自然光を取り込んだ明るい空間です。また、壁面には大藤小、向笠小、岩田小で親しまれてきた緑色、黄色、青色を配色し、地域に愛された小学校をいつも身近に感じる工夫が施されています。



階段



ラーニングセンター（学習スペース）



教室



交流コモンズ

優しさが育つ場所「コモンズ」

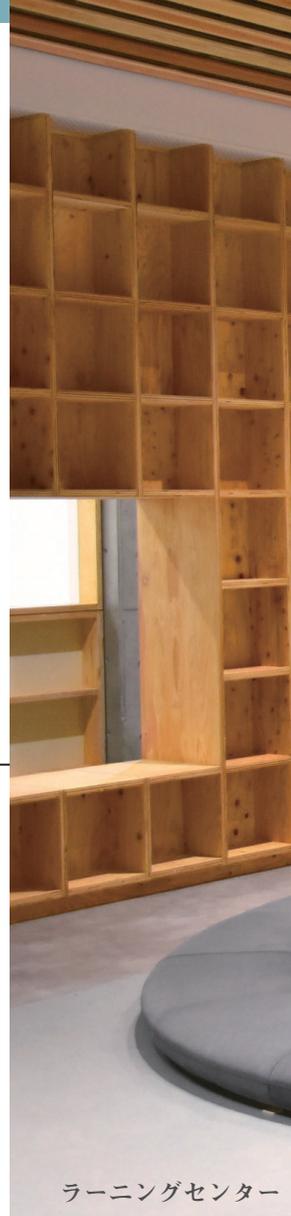
コモンズとは、子どもたちが自由に交流できる空間です。

〈学年コモンズ〉

各学年フロアに設けた、普通教室より広い活動空間です。グループ学習や発表、作品展示など、目的に応じた学習を行います。

〈交流コモンズ〉

学校の中心に設けた、異学年交流のための空間です。1年生から9年生までが利用し、小中一貫教育の礎となる交流を育みます。



ラーニングセンター

校舎内の施設

- 教室
普通教室、特別支援教室、多目的室
- 特別教室
ラーニングセンター、理科室3室、学年コモンズ、交流コモンズ、家庭科調理室、ランチルームなど
- 管理諸室
校長室、職員室、サテライト職員室、保健室など
- その他施設
屋内運動場（サブアリーナ）、屋上ひろば、調理場

学校の顔となる「ラーニングセンター」

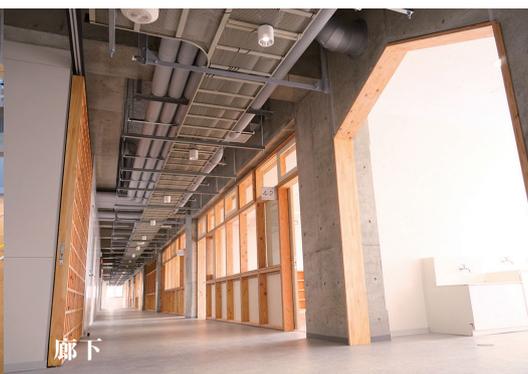
昇降口の正面にラーニングセンターを設置し、名前の通り学びの中心の場となります。オープンスペースとなったこの学校図書館には多くの書籍が配架され、木材を活かした空間で落ち着いて本に親しむことができます。また、スクールバスを待つ場所としても利用でき、読書だけでなく、学習をするスペースも設置されています。

未来へつなぐ学びと地域づくり
本校は、地域と共に培ってきた教育の歩みを礎に、9年間の小中一貫教育で子どもたち一人一人の可能性を広げます。空間交流や、多彩な学びの場を活用し、主体的な学びや異学年交流を日々の生活の中に取り入れていきます。
これから学校が地域の誇りとなり、磐田の教育に新たな1ページを刻むことでしょう。
共創の理念をもとに、学校を核とした地域づくりの第一歩がスタートします。

HOME（家）を感じるデザイン
昇降口や廊下の一部には、家の屋根を連想させるデザインを施しました。この形には、学校が地域にとつての「Home」のような存在になってほしいという願いが込められています。
新設のサブアリーナ（屋内運動場）
既存のメインアリーナに加え、屋内のサブアリーナも整備しました。
天井に吸音性能に優れた素材を用い、床面は国際大会でも使用されるビニル床シートを施しています。2階部分には幅広の通路を設置し、軽運動やランニングなどができるスペースを確保しました。



サブアリーナ



廊下



昇降口